

ひと・夢・まち 町長コラム

迷ったときは「損得」ではなく「善悪」で判断せよ（平成30年6月号）

今年の1月から放送されている「西郷どん」。

昨年、鹿児島から当町に来ていただいた西郷隆盛さんの曾孫である西郷隆文さんが私に話してくれた言葉があります。それは隆文さんがお父さんから聞かされ続けた「西郷隆盛さんの言葉」で、実際に家訓のように言い伝えられている言葉ゆえに、とても重みのある響きを感じとれました。また、西郷家に語り継がれている「激動の時代の生き方」を記した10の「訓え」という本を知ったので、町民の皆様にもぜひ紹介したいと思います。これより半年、NHK大河ドラマを見ながら中山町と縁のある西郷家の訓えを覗いてみましょう。

一、迷ったときは「損得」でなく「善悪」で判断せよ

「地方創生」が叫ばれて5年が経とうとしています。人口減少問題、少子高齢化、人手不足への課題等々、地方は四苦八苦しています。そして、都心への一極集中は止まる所を知らない状況です。このような時代に地方が独自のまちづくりを考えようとしたとき、「町にとって何が得策なのか」は、当然検討していかなければなりません。しかし、最終判断をするときに「善いか悪いか」をないがしろにしたり、見極めることができない状況になったりした時には、安易な道となってしまう場合があります。

そこで、ちょっと一息！

西郷さんは常に本質を考えて行動していた人だったといいます。決して安易な道には進まず「正しい」と思った道を選択してきたのではないのでしょうか。